



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西宮の沢6条1丁目 新築工事	階数	地下1階、地上2階
建設地	手稲区西宮の沢6条1丁目38-4、348-5、498-36、-37	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	182 人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年9月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	2,663 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2022年7月28日
建築面積	1,490 m <sup>2</sup>	作成者	小山内
延床面積	4,215 m <sup>2</sup>	確認日	2022年8月1日
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 83% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外のオンサイト手法 83%

④上記+オフサイト手法 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価  
建物全体の[BEI][BEIm]= 0.80

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2

音環境	2.9
温熱環境	2.8
光・視環境	2.8
空気質環境	4.1

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1

機能性	3.9
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	2.1

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.0

生物環境	2.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	2.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	3.0
効率的運用	2.5

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	2.6
汚染物質回避	4.4

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

地球温暖化への配慮	3.6
地域環境への配慮	2.6
周辺環境への配慮	3.2

### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 省エネルギー、緑化に配慮した計画とし、高温排熱や騒音の発生源となる機器を屋上へ設置し近隣への影響が少なくなるよう努めた計画としている。	<b>A 省エネルギー</b> 「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」の基準を満たした断熱性能を確保しています。
<b>B 省資源等</b> 節水型衛生器具、LED照明、人感センサーなどを採用し環境負荷の軽減に努めている。	<b>C 緑化</b> 条例上の緑化面積基準を上回る緑化計画を行っている。
	<b>D 雪処理</b> 敷地内に十分な駐車場スペースを設け、冬場の堆雪スペースなどに利用。

### 4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)  
 (仮称)西宮の沢6条1丁目新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル		目標とする騒音レベルの評価です。		3.0	0.40	3.0	0.40	2.9
1.2 遮音				5.0	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能		建具は遮音性能T-2を使用している。		5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		スラブ厚、スラブ面積とスラブ素面時重量床衝撃音に対する遮音等級の目安を参考にスラブ厚240tスラブ面積54㎡(最大値)により判断しています。 (根拠図参照)			-	3.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	1.00	2.8
1 室温		一般的な設定値の室温設定の設備容量が確保されている。		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		省エネ		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		一般的な湿度を実現することが可能な計画としている。		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		カセット型のためレベル1としている。		1.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.2	0.30	2.8
1 昼光率		開口を大きく計画し昼光を確保している。(根拠図参照)		5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備		省エネ 昼光利用設備がないレベル3とした。		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		省エネ カーテンBOXで制御している。		1.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	1.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63	4.1
1 化学汚染物質		内装材は全てF☆☆☆☆製品を使用。(内部仕上表参照)		5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		建築基準法及び建築物衛生法を満たす換気量としている。		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		換気計算により居室面積の1/10以上の開閉可能な窓を確保している。(根拠図参照)			-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		周辺に汚染源はありません。		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視					-		-	
2 喫煙の制御		喫煙室を設けている。		3.0	1.00		-	

Q2 サービス性能			3.0	0.30	-	-	3.1
<b>1 機能性</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>3.9</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性	個室10.01㎡/床(最小内法面積)		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画	基準項目の半分以上を満たしている。	3.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	居室の天井高さ2.4mを基準としている。		-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	建物用途を内装計画に反映し居室では落ち着いた色合いを使用し安心や安らぎを演出します。インテリアパースによる内装計画を行う。	3.0	1.00	3.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	②⑤⑥⑧⑩を採用している。	3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	建築物衛生法における特定建築物に該当しない建築物 ①④⑥⑧⑩⑪に該当 清掃用資材・廃棄物の保管スペースを確保	3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた耐震性で設計している。	3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能	揺れを抑える装置を導入していません。	3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>3.2</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源 マニュアル巻末補助資料による合成樹脂吹付仕上げの耐用年数15年を採用	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 補助資料1.建築物の構成要素の耐用年数一覧表より、内壁のビニルクロス貼20年を採用	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源 ほぼ全てに亜鉛鉄板を使用している。	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 参考)空調・給排水管の判断基準をもとに塩ビライン鋼管・配管用炭素鋼鋼管(白)の使用で判断。	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源 補助資料1.建築物の構成要素の耐用年数一覧表より、消化ポンプ20年でレベル4とする。	4.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備	非常用発電設備を備えている。 また洪水ハザードマップによると浸水が想定されていない地区となってい	3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法	人の安全が保障できる基本要基基準としている。	3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	PHS網で通信手段の多様化、停電用電話の設置、ケーブルTVにより災害情報の入手できる設備としている。	4.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>				2.7	0.30	2.0	1.00	2.1	
<b>3.1 空間のゆとり</b>				2.2	0.30	1.0	0.50		
1 階高のゆとり				1.0	0.60	1.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ			建物全体は0.266よりレベル4と判断しました。 居住部分は1.14よりレベル1と判断しました。	4.0	0.40	1.0	0.40		
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			建築基準法施行令85条に示す対象室(共用部、住居部)の値であるためレベル3とした。	3.0	0.30	3.0	0.50		
<b>3.3 設備の更新性</b>				3.0	0.40		-		
1 空調配管の更新性			中央式空調設備を持っていない。	3.0	0.20		-		
2 給排水管の更新性			給排水管の使用例を参考に各住戸の縦管主管以外がPS内のためレベル3と判断した。	3.0	0.20		-		
3 電気配線の更新性			分電盤は構造体を痛めることなく更新、修繕が可能な計画としている。	3.0	0.10		-		
4 通信配線の更新性			電話・インターネットはすべてCD管にて対応のため、構造体を痛めることなく更新、修繕が可能。	3.0	0.10		-		
5 設備機器の更新性			ポンプの更新に対応したルートは確保できているが、更新、修繕時に建物機能を維持できない。	3.0	0.20		-		
6 バックアップスペースの確保			バックアップスペースは確保していない。	3.0	0.20		-		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	2.0	
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			緑化	「札幌市緑の保全と創出に関する条例」に基づく緑化基準を満たし、尚且つ中高木を植栽している。	2.0	0.30		2.0	
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			緑化		2.0	0.40		2.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30		-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			雷処理		1.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			省資源 緑化	暑熱環境を緩和するため、空地を設け風の通り道の確保、中・高木の植栽・ポーチを設け日陰の化k補に努めている。	3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								3.3	
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	3.3
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			省エネ	BPI=0.71	5.0	0.20		-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>			省エネ		3.0	0.10		-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			省エネ	[BEI][BEIm] = 0.80 -	3.0	0.50		-	3.0
<b>4 効率的運用</b>					2.5	0.20		-	2.5
集合住宅以外の評価					2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング			省エネ	取り組みなし	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			省エネ		2.0	0.50		-	
集合住宅の評価								-	
4.1 モニタリング			省エネ					-	
4.2 運用管理体制			省エネ					-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	3.1
<b>1 水資源保護</b>					3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水				節水型水栓型便器を使用しています。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				雨水利用の仕組みなし。	3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				雑排水等を利用していない。	3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>					2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減			省資源	材料使用量の削減の取組みなし。	2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			省資源	既存の建築躯体を再利用していない。	3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			省資源	-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			省資源	-	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			省資源	-	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			省資源	躯体と仕上げが容易に分別可能となっている。	4.0	0.22		-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			4.4	0.20	-	-	4.4
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料のみを使用。	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		5.0	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	5.0	1.00	-	-	ODP=0かつGWP=1の断熱材を使用している。
3	冷媒	省資源	-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮	省資源	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止	省資源	3.0	0.25	-	-	ガス給湯器は環境省による「低Nox型小規模燃焼機器の推奨ガイドライン」に示された濃度のガイドライン値と判断しレベル3とした。
2.2	温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 蓄処理	4.0	0.50	-	-	1)①卓越風などの風環境を把握している。2)①②③ 3)① 4)①は根拠資料により評価 5)①スコアシートより評価 ②室外機の排気が吸込側にショートサーキットしないよう配置している
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	2.0	0.25	-	-	「札幌市雨水流出抑制に関する指導要綱」の対象とならないため、流出抑制対策を行っていない。
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	排出基準の厳しいほうの基準を満たしている。
3	交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	適切な量の駐車スペースを確保し駐車場の出入口は前面道路をさけた。
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理	4.0	0.25	-	-	1).3)建物から発生するごみの種類や量について調査し、建物内のごみ保管庫に分別回収ボックスの設置を計画している。
<b>3 周辺環境への配慮</b>			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	規制対象となる特定施設ではありません。
2	振動		-	-	-	-	対象外です
3	悪臭		-	-	-	-	対象外です。
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	法や行政指導による義務付けや近隣の要請もなく特に何も対策を行っていません。バックデータもありません。
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	制限を受ける高さ以下のため規制なしと判断しました。
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-	光害対策ガイドラインのチェック項目の過半を満たしている。過剰な外部照明を抑制しセンサーやタイマーを使用。広告塔はなし。
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	グレア対策を行っていないためレベル3とした。



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.0	BEEランク	B+
建物名称	(仮称)西宮の沢6条1丁目 新築工事				
建物用途	病院				
延床面積	4,214.6 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		<b>レーダーチャート</b>	
地球温暖化対策	最重点項目 <b>省エネルギー</b>	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理 省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>	
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.1 最低点 6.6 )	<b>合計 14.5点 /23.1点</b>
Q1 温熱環境	スコア <b>0.6</b> /1.0 LR1 建物外皮の熱負荷抑制
Q1 光・視環境	スコア <b>0.7</b> /2.1 LR1 自然エネルギー利用
	LR1 設備システムの高効率化
	LR1 効率的運用
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.9 最低点 7.5 )	<b>合計 15.8点 /23.9点</b>
Q2 耐用性・信頼性	スコア <b>0.7</b> /1.1 LR2 非再生性資源の使用量削減
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア <b>1.4</b> /2.3 LR2 汚染物質含有材料の使用回避
	LR3 地球温暖化への配慮
	LR3 地域環境への配慮
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )	<b>合計 7.6点 /15.3点</b>
Q3 生物環境の保全と創出	スコア <b>1.8</b> /4.5 LR3 地域環境への配慮
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア <b>2.4</b> /6.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア <b>1.4</b> /2.3
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )	<b>合計 1.0点 /3.0点</b>
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア <b>0.0</b> /1.0 LR3 地域環境への配慮
	スコア <b>1.0</b> /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数